



市長 岩澤 勝

明けまして

おめでとうございます。

皆様には、晴れやかに新年をお迎えることとお慶び申し上げます。

初夏のラベンダー園「千年の苑」のプレオープンには、関東各地から7万7千人を超えるお客様をお迎えでき、嵐山町をアピールすることができました。また、錦秋の嵐山渓谷では、町内外からの観光客で賑わいました。

このように昨年、町では、町民、地域、役場「力」を結集して、それぞれの事業を着実に行うことができました。ご協力ありがとうございました。

- ・嵐山渓谷バーベキュー場が、「BBQ&キャンプ場人気スポットランキング2018」で、2年連続日本一に。選出は3月でした。

- ・地域活力創出拠点 嵐山町ステーションプラザ「嵐なび」が、5月の連休に武蔵嵐山駅にオープン。
- ・日本最大級のラベンダー園「千年の苑」プレオープンは6月でした。
- ・花見台工業団地拡張地区の事業化決定は8月でした。
- ・B&G財団による「家でも学校でも

ない第三の居場所 b&gらんどん」の助成決定は10月でした。

少子高齢・人口減少と、大きく変化している社会状況のなかで、いま、まの活性化、産業の推進力、稼ぐ力の創出こそ喫緊の最重要課題です。迷うこと、立ち止まることはできません。

「北風」は北から南へ向かって吹く風を言いますが、潮流の「北流」とは南から北へ流れる潮のことを言います。方向を表す言葉、示す言葉は難しく、その見極め具合は、更にややこしくなります。

町の事業展開も、方向をしっかりと確認することが、肝要であり、注意が必要です。

新しい年号となる新年も、嵐山町は動きまします。

- ・武蔵嵐山駅周辺整備事業も次のステップへ
- ・教育の無償化を受け日本一の教育のまちづくりの進展、特別教室への空調整備事業、情報教育の推進事業
- ・健康増進センターには、子育て世代

包括支援センターが立ち上がりまします。子育て中の皆様と一緒に子供たちと過ごす相談の場、遊びの場です。緊急対応の核となる、防災無線のデジタル化への更新工事

- ・花見台工業団地拡張地区の文化財発掘、県企業局との連携による事業推進、インターチェンジランプ内は企業立地が進展します。

町民の皆様のご協力を得ながら、職員と一丸になり、役場力を総動員して事業推進に向き合います。

〈不易は知らざれば 基立ちがたく 流行を知らざれば 風新たならず〉

松尾芭蕉の俳諧の理念「不易流行」がいま私たちに訓えます。

地域の伝統、歴史・文化・自然環境、衣食住の文化遺産、私たちを取り巻く生活を潤すハーモニーは大切にしなければなりません。しかし社会変革の動きには、柔軟に迅速果敢な動きが求められていきます。

平成三十一年はどんな変化の一年になるのか楽しみでもあります。

初暦知らぬ月日は美しく

(吉屋信子)

新たな御世に、嵐山町が一層の発展を期し、町民皆様の幸多く、平安な年となるようにひたすら「祈念申し上げます、年頭の挨拶といたします。



町議会 議長 佐久間 孝光

元号「平成」最後のお正月

おめでとうございます

「平成」の典拠となったとされる言葉です。この元号に託された思いをもう一度顧みて、省みるべきことがあれば、改善、改革をし、次の時代に備えることが「平成」という時代への感謝に通ずることになると思います。

平成31年の新春をお健やかに迎えることと心よりお慶び申し上げます。また、元号「平成」としての最後のお正月でもあり、様々な思いとともに新年を迎えられた方もおられることとご推察申し上げます。少し寂しい気も致しますが、それは新たな時代の幕開けでもあります。

平成という時代を振り返ってみますと、元年にはバブル経済を象徴する三菱地所によるニューヨークのロックフェラーセンター買収、ベルリンの壁の崩壊、3年にはバブル経済崩壊、ソ連崩壊、7年には阪神・淡路大震災、オウム真理教による地下鉄サリン事件、その後は日本固有の雇用形態であった終身雇用や年功序列等の崩壊、そして

デフレの進行。13年にはアメリカ同時多発テロ事件、22年には社会保険庁が廃止され日本年金機構へ、23年には東日本大震災、福島第一原子力発電所事故、26年には御嶽山噴火、28年には熊本地震、30年には西日本豪雨、北海道地震の発生。近年はその他、竜巻、大雪、台風等々自然災害による被害が規模、回数ともに増加しているように感じます。それと同時に、いじめや虐待、様々なハラスメント、あおり運転等、人の心がすさみ、ちよつとした我慢さえできなくなってきた傾向があることは、経済的、財政的問題と並ぶ大変由々しき現状であると思えます。

「内平外成」「地平天成」ともに元号

嵐山町議会は、本年任期満了に伴う選挙が予定されておりますが、前回無投票であったこと、議会モニターからのご発言、多くの町民の方々からの意見、アンケート等を参考に議論を重ねてまいりました結果、定数を14人から13人とするにと致しました。更に、多くの方々に関心をお持ち頂き、議会活動の活性化、町政の進展に繋がれることを願っております。

人生の先輩が「今後は3Kの心で生きていく」との決意のお言葉を述べておられました。「感謝、感動、寛容」。私も日々心掛けようと思えます。本年が皆様にとりまして希望に満ちた、幸多き年となりますことを心よりお祈り申し上げます。